

香取遺産



(右)空中写真①
(中)空中写真②
(左)出土須恵器「平瓶」

かたのまえのへた
片野前野辺田遺跡の
発見
vol.194

片野前野辺田遺跡は、令和2年に発見されました。遺跡は、佐原地区片野の大須賀川とその支流に挟まれた南北に延びる台地に所在しています。

同じ台地の南東0.4 kmには、片野前野辺田古墳群があります。昭和46年に新佐原変電所の建設に伴い発掘調査が実施されたもので、古墳時代後期の造営年代が考えられています。また、同古墳群の西側の台地斜面には、所横穴(成田市)があります。横穴は、古墳時代後期から奈良時代にかけて、山腹や台地の縁辺部に横から穴を掘って墓室をつくった埋葬施設です。所横穴は、未調査のため詳細は不明ですが、同古墳群の造営終了後もしばらくは営まれていた可能性があります。

片野前野辺田遺跡は、その後、開発事業計画に伴い発掘調査を実施することとなりました。調査の結果、竪穴住居跡が70軒以上見つかり、古墳時代後期から奈良・平安時代の集落の跡であることが分かりました。集落の成立期である古墳時代後期は、数軒単位の小規模なものでしたが、次第に軒数を増してゆき、奈良時代には最盛期を迎えました。しかし、平安時代になると、軒数は減少していきます、集落は消滅しました。

同遺跡の成立時期から最盛期は、片野前野辺田古墳群と所横穴の造営時期と重なっていることが分かります。

また、片野前野辺田遺跡からは、古墳などに副葬されることが多い平瓶ひらべという変わった形の須恵器すゑきも出土しています。このことから、遺跡は古墳群や横穴の造営と関わりのある人々の集落跡と考えるとよさそうです。集落跡は、さらに北側に展開していると思われる、今後発掘調査などにより新たな情報が得られることが期待されます。